旧参道と現在参道十六羅漢

新旧十六羅漢の経緯

旧十六羅漢は佐藤要憲住職の厄年に制作（本堂の周り）

新十六羅漢は佐藤天俊（さとうてんしゅん）住職の還暦に制作（本坊の下）

十三仏さま

登山道には私たちにもっとも身近で、古くから信仰される十三の尊い仏さまがあります。

この世に生きる我々の守り本尊であると同時に、来世の、つまり先祖供養の仏さまでもあり、年忌の際には必ず御本尊として拝まれています。

第一番	不動明王	（ふどうみょうおう）	初七日
第二番	釈迦如来	（しゃかにょらい）	二七日
第三番	文殊菩薩	（もんじゅぼさつ）	三七日
第四番	普賢菩薩	（ふげんぼさつ）	四七日
第五番	地蔵菩薩	（じぞうぼさつ）	五七日
第六番	弥勒菩薩	（みろくぼさつ）	六七日
第七番	薬師如来	（やくしにょらい）	七七日
第八番	観世音菩薩	（かんぜおんぼさつ）	百ヶ日
第九番	勢至菩薩	（せいしぼさつ）	一周忌
第十番	阿弥陀如来	（あみだにょらい）	三回忌
第十一番	阿閦如来	（あしゅくにょらい）	七回忌
第十二番	大日如来	（だいいちにょらい）	十三回忌
第十三番	虚空蔵菩薩	（こくうぞうぼさつ）	三十三回忌

※十三仏の位置は26ページに掲載しています。

西国三十三観音

西国三十三ヶ所巡礼は、今から約1300年前に始められた観音霊場の旅で、日本巡礼の草分けです。

第一番	青岸渡寺	第九番	興福寺南円堂	第十七番	六波羅蜜寺	第二十五番	清水寺
第二番	金剛宝寺	第十番	三室戸寺	第十八番	頂法寺	第二十六番	一乗寺
第三番	粉河寺	第十一番	上醍醐寺	第十九番	行願寺	第二十七番	円教寺
第四番	施福寺	第十二番	正法寺	第二十番	善峰寺	第二十八番	成相寺
第五番	葛井寺	第十三番	石山寺	第二十一番	穴太寺	第二十九番	松尾寺
第六番	南法華寺	第十四番	園城寺内聖願寺	第二十二番	総持寺	第三十番	宝厳寺
第七番	竜蓋寺	第十五番	観音寺	第二十三番	勝尾寺	第三十一番	長命寺
第八番	長谷寺	第十六番	清水寺	第二十四番	中山寺	第三十二番	観音正寺
						第三十三番	華厳寺

法起院（ほうきいん）開祖徳道上人（とくどうしょうにん）が、病で生死をさまよっていた時に閻魔（えんま）大王から「苦しむ人々を救うために三十三観音霊場を創り、広めよ」と告げられたのが西国三十三ヶ所巡礼の始まりといわれています。その後、花山法皇が「徳道上人の勧めた観音霊場を再興するように」とのお告げをうけ、那智勝浦の青岸渡寺を一番とし、和歌山・大阪・奈良・京都・兵庫・滋賀を経て、満願成就・岐阜の華厳寺までの三十三霊場を巡られたといいます。それ以後西国三十三観音巡礼が盛んになりました。

そのため花山法皇は、西国札所中興の祖といわれています。

この霊場巡りには、全国各地から毎年数十万人の巡礼者たちが、各地の霊場に詣でるといわれています。

三瀧寺にある摩崖仏三十三観音は江戸時代初期に彫られ、すべて現存します。

三瀧寺一番観音

三瀧寺二番観音

三瀧寺三番観音

三瀧寺五番観音

5.日渉園跡(市指定史跡)

太鼓橋

日渉園(にっしょうえん)は寛政10年(1798年)広島藩の藩医である後藤松眠(しょうみん)が藩命により、当時の沼田郡新庄村に開園し、明治4年(1871年)に廃園になった藩営の薬草園です。

当時、眼下に太田川を見下ろす三滝山中腹の日当たりの良いこの地に諸種の薬草が栽培されていました。現在は庭園として「涸れた池とそこに架かる太鼓橋」「神農堂と呼ばれる建物の基礎と台座」「眼鏡橋」など一部が残るだけですが、当時の姿を偲ぶことができます。

江戸時代藩営の薬草園は全国各地に設置され幕末まで繁栄を続けていました。明治維新後は洋薬の普及に伴う和漢薬の需要減少のため、全国各地の薬草園は次々と消えていき、現在全国で昔の形をとどめる「藩の薬草園」は日渉園だけとなっています。

日渉園には薬草園だけではなく、もう一つの歴史があります。後藤松眠の子、松軒(しょうけん)は長崎でシーボルトに蘭学を学んだ際に高野長英と親交を結び、その縁で「蛮社の獄(ばんしゃのごく)」で幕府から追われていた高野長英を一時庭園内の神農堂にかくまったという事実があります。

神農堂の基礎と台座

日渉園跡は日本には珍しい薬草園跡として、また近世史に残る高野長英ゆかりの地として昭和62年(1987年)に市指定史跡になりました。平成12年(2000年)後藤家より広島大学医学部に寄贈され、現在昔の記録を基に薬草園庭園として整備が進んでいます。

6.親鸞聖人像跡

昭和16年の町内ラジオ体操

広瀬精一氏は、幼いわが子に他界されたことから、諸行無常の思いを募らせ、親鸞聖人の教えに徹するようになり「南無阿弥陀仏」の六字の名号にちなんで、六体の親鸞像を作りました。当時広島に住む多くの人たちは浄土真宗の信者であり、西本願寺広島別院が見えるこの地にその内の一体を昭和12年(1937年)に建立しました。

親鸞聖人像の台座

昭和20年(1945年)8月6日、人類史上はじめて原子爆弾が広島に投下され、爆心地から2.5km離れたこの親鸞聖人像も被爆し、焼けただれてしまいました。

現在ニューヨークにある
親鸞聖人像

昭和30年（1955年）、広瀬氏の発案により、この像は「ノーモアヒロシマ」を世界に訴えるために、ニューヨーク本願寺仏教会に移されました。

その後、広瀬氏はその台座に松若丸と呼ばれていた頃の親鸞聖人の童形（どうぎょう）像を安置しました。被爆50周年を迎えた平成7年（1995年）に童形像は、中区寺町の西本願寺広島別院へ移設され、台座は被爆の証としてこの地に残されています。

7. 誓願寺

誓願寺は紫雲山・光照院と号し、天正18年（1590年）10月15日に策伝（さくでん）上人の意向を受けた毛利輝元公が材木町（現在の平和公園）の地に開基しました。

開山の恵空（けいくう）上人は京都本山誓願寺より天智天皇御宸筆を賜り寺号誓願寺とし、毛利家の菩提寺となりました。

御本尊は阿弥陀如来で浄土宗西山派に属します。

当時は3200余坪の境内を持ち、本堂、釈迦堂、阿弥陀堂、鎮守堂、開山堂、厳島大明神、位牌堂、経堂、鐘楼、茶室と高さ13m、幅9mもある壮大な大門を有し、国泰寺、本願寺別院と共に広島の三大伽藍に数えられていました。

江戸時代には灯明番として妻帯寺十六坊があり、鎮守社門として毎年3回「武運長久・国家安全」の祈祷を行い霊符を藩主に納めていて、寺格は准檀林（じゅんだんりん）で別院と称されました。

池に亀、伽藍（がらん）や境内には鳩が多く、市民に親しまれていましたが、爆心地より400mのため、昭和20年（1945年）8月6日の原爆で灰燼に帰しました。

平和記念公園建設のための区画整理により、昭和38年（1963年）5月3日、現在の広島市西区三滝本町に本堂、書院、客殿、茶室「策伝庵（さくでんあん）」、庫裡（くり）、山門が移転・再建されました。

創建400年を記念して、平成3年（1991年）11月23日に書院と庫裡を改築し、書院には会館「無得殿（むとくでん）」と茶席「陽善庵（ようぜんあん）」が新設されました。

境内には、毛利元道寄進の昭和天皇お手植えの松、法然上人お手植えの誕生寺銀杏、被爆した水盤石と釣燈籠などがあります。

被爆した水盤石

8. 海雲寺

龍興山・海雲寺と号し、宗派は曹洞宗、本尊は釈迦牟尼佛（しゃかむにぶつ）です。古くは安芸高田市吉田町にありましたが福島正則の時代（慶長年間）に新川場町（現在の中区小町）に移りました。

その後、国泰寺を開山した天眼普照禅師（てんげんふしょうぜんじ）を海雲寺の開山とし、その時から国泰寺の末寺となりました。

昭和20年（1945年）8月6日原爆により壊滅し、昭和31年（1956年）現在の広島市西区三滝本町に移り今に至っています。

地獄極楽の木

この海雲寺に「地獄極楽の木」というめずらしい木があったといいます。

今から四百年ほど前、原勘兵衛可政(はらかんべえよしまさ)という人がいました。可政は、僧であっただけに、大変信心深い人でした。

「死後にはあの世に必ず行く、地獄、極楽もきっとある。間違いないことだ」。
と、いつも言っていました。けれども、それを聞いた人たちは、
「いや、そんなものはお経やお説教の話の中だけのことで、本当にあるはずがないで～」。
とか、
「あるかもしれないが、まだ誰も自分の目で確かめた人はいないからのう」。
といって、可政の話を信じて聞く人は、ほとんどありませんでした。可政はそれが残念でしかたありません。かならず地獄、極楽はあると思っていても、これこのとおりと目の前に見せることができません。それがなんとも残念で、なんとかしてわかってもらうことができないものかといつも考えていました。

そうこうするうちに、可政もだんだんと年をとって病の床につきました。可政は、死期が近いことを悟り、妻子や友人を枕元に呼んで、
「わしもあの世に行く日が近づいたようじゃ。地獄、極楽があるかないかをはっきりさせたいと思う。自分の目で地獄、極楽を見たら、確かめたという証拠に、５０日以内に海雲寺の墓の下から木を生やすぞ。もし、芽が出てこなかったら、地獄、極楽はないということじゃ」。
と言い残し可政は死に遺言どおり海雲寺に葬られました。

可政が死んで２５日経ちました。人々は、法要を営むため、海雲寺に出かけました。

とどうでしょう。可政の言葉どおり、墓石の下から青い木の芽が出ているではありませんか。みんなは顔を見合わせました。若芽は月日とともにぐんぐん大きくなり、大きな木に育ちました。

人々はこの木を「地獄極楽の木」と呼んで、後世まで大事にしていたということですが、残念なことに、原爆のために焼かれてしまいました。原勘兵衛可政の墓は、今も海雲寺にあります。

9.三篠神社

永禄年間（1558−70年）にこの近在の別府の地の住人が五穀豊穣を願って大歳大明神を創祀（そうし）した祠を作ったのがこの神社の始まりです。

天正年間（1573−92年）に雲石街道東側にある楠の大木の下に小祠（しょうし）を建てて猿田彦神を祀り、三篠村の発展を願いました。三篠神社がこの地に創建されたのは承応3年（1654年）で大国主神と大黒天とを習合し黒皇（くろおう）神社と称しました。

大正3年（1914年）、町の中心に当たる楠木鎮座の黒皇神社に新庄鎮座の熊野神社、打越鎮座の八幡神社と青木神社を合併して社号を三篠神社と改称し、全町の総氏神と仰ぐことになりました。

昭和12年（1937年）、境内地を拡張し壮大な社殿を造営しましたが、昭和20年8月6日、原子爆弾のため樹齢300年に及ぶ境内木と共に焼失しました。

幸に御神体は災禍を免れたので、熊野神社跡の御旅所（おたびしょ）（現在の新庄の宮神社）に遷御（せんぎょ）し、昭和29年（1954年）、拝殿を造営して御神体を帰し、昭和48年（1973年）には山手鎮座の天神社を合祀し現在に至っています。

被爆敷石

御鎮座430年記念事業（平成4年〜平成11年）として、社務所の改築をしました。広島信用金庫横川支店から被爆敷石の寄贈を受け、参道の両側に使用し拡張しました。合わせて燈籠、玉垣の建築も行いました。

社殿に向かって右側には、樹齢100年を超える被爆クスノキがあります。このクスノキは、爆心地から約1.8キロ（広島市西区三篠町一丁目）旧逓信省電気試験所広島出張所（現在の日本電気計器検定所中国支社）の北の民家に2本あったもので、昭和29年（1954年）道路拡張工事のため、三篠神社と広島市立三篠小学校にそれぞれ移植されました。神社では、しめ縄を張り、御神木として大切にしています。

三篠小学校の被爆クスノキ